



～こどもに安心を贈ろう～

先月、2023年の日本の合計特殊出生率及び出生数が、過去最低を更新したとのニュースが報道されました。一方でこどもへの虐待は年々増え続けています。児童虐待には、こどもの身体に外傷が生じるような明らかなものもありますが、家庭内など閉鎖的な環境では、周囲が気づきにくいこともあります。気づきにくい特殊なものとして代理ミュンヒハウゼン症候群があります。養育者が子どもに病気や障害があるように見せかけ、献身的に看病することで周囲の注目を集めようとするものです。こどもを深く心配する様子を見せて献身的に振る舞うため、周囲もまさか養育者がこどもの症状を偽ったり病気を故意に作り出したりしているとは気付かずに、不要な検査や治療が繰り返されたりします。

虐待の背景には複雑な要因があります。虐待する親自身がさまざまな問題を抱えている場合も多く、親に寄り添うことも必要になります。それでもこどもの安全を守ることは一番大切です。

スヌーピーでお馴染みのチャールズ・M・シュルツのコミック『ピーナッツ』に、こんなシーンがあります。友達から「安心して何だと思う？」と尋ねられたチャーリーブラウンが「安心は、車の後ろの座席で眠ること」と答えます。家族で車で遠出をして夜道を帰る時、こどものきみは車の後部座席でなにも心配しないで眠れる。それは前の座席にいる両親が、心配ごとは全部引き受けてくれるからと言います。けれどずっとそこで眠ることはできない。大人になったら、今度は自分が安心させる側になるんだよと。

親の愛情は、こどもの心の栄養になり、心の安定に繋がります。何の心配もなく後部座席で眠れる、安心に満たされたこども時代を与えられるのは大人です。それに対して虐待は、こどもの安全が脅かされている状態です。こどもの心の中は心配や不安恐怖でいっぱいです。一番身近で信頼できるはずの親からの虐待が、どれだけこどもの心に深い傷を残すか・・・「こどもは乾く前のセメントのようなもの。落ちたものはみんな跡を残す」アメリカの児童心理学者ハイム・G・ギノットの言葉です。こ

どもの心は、柔らかく傷つきやすいものであり、こども時代に付いた跡はそのまま固まり残る。大人が思っている以上に、こどもに対して発せられた言葉や振舞いは、後々までこどもに影響を与え続けるのです。大人になった私たちは、こどもを安心させる側として、こどもを愛し、尊重し、こどもに安心を与えたいものです。



ヨガでリフレッシュ!

7月30日(火) 10:00~11:30
文化会館 多目的ホール

- 申込〆切 7月25日(木)
- 講師 ヨガインストラクター 高橋 志保さん
- 持ち物 飲み物、タオル、ヨガマット



*ヨガマット
貸し出しあり
10枚
申し込み時に
お伝えください



*対象

町内にお住
まいの方

*託児あり

申し込み時に
お伝えください



●申し込み・問い合わせ
子ども家庭支援センター 0428-85-2611

~夏休みこども企画~



① **8月6日、7日、8日の3日間 10:00~11:30まで**

「**幼児・親子向けの水遊び**」

きこりん2階の芝生で、水遊びを楽しめます!
持ち物は、水着・タオル・着替え・飲み物など



② **8月15日、16日の2日間 14:00~16:00まで**

「**スライムづくり**」

*20分程で作れます

小学生以上が対象です。



*①・②とも、事前の申し込みは必要ありません。

発行：子ども家庭支援センター・きこりん

奥多摩町小丹波 108 番地

TEL：0428-85-2611

相談専用：0428-85-1788

相談専用メールアドレス kikorin@town.okutama.tokyo.jp

